令和３年度　ミニ展示

ツノ谷古墳・新谷石ヶ谷古墳群と古墳時代後期の鉄製農工具

はじめに

（公財）愛媛県埋蔵文化財センターでは、平成 25～28 年度にかけて今治市新谷に所在するツノ谷古墳と新谷石ヶ谷古墳群の調査をおこない、令和 2 年度に調査成果をまとめた報告書を刊行いたしました。ツノ谷古墳と新谷石ヶ谷古墳群は古墳時代後期の古墳で、多くの種類の鉄製農工具が出土しました。ツノ谷古墳と新谷石ヶ谷古墳群が所在する新谷地域は、近見山地域、日高丘陵地域、唐子台地域、桜井地域とならんで、今治平野の中でも特に鉄製農工具の出土量が多い地域です。さらに、愛媛県内の古墳から出土した鉄製農工具は、古墳時代前期では約 60 点、古墳時代中期では約 70 点であるのに対し、古墳時代後期は約 800 点と 10 倍以上に増えています。

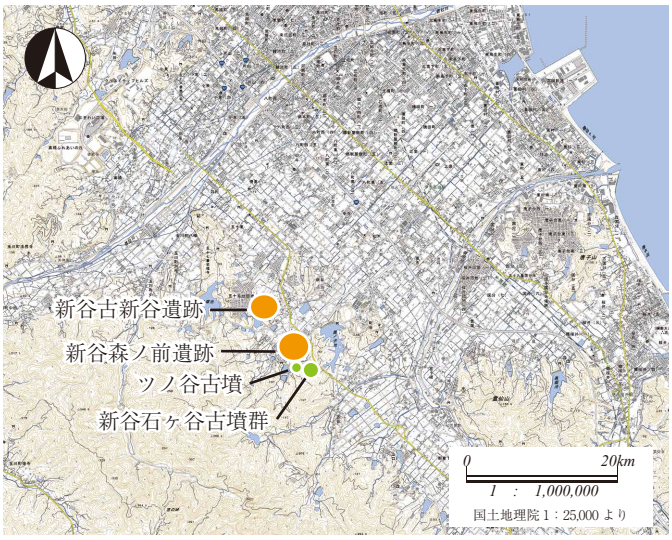


図１　ツノ谷古墳・新谷石ヶ谷古墳群と周辺の遺跡

今回の展示では、ツノ谷古墳と新谷石ヶ谷古墳群の概要や古墳群から出土した鉄製農工具を紹介しながら、古墳時代後期の愛媛県内で数多くの鉄製農工具が出土する理由や、周辺にある遺跡との関係などについて考えてみます。

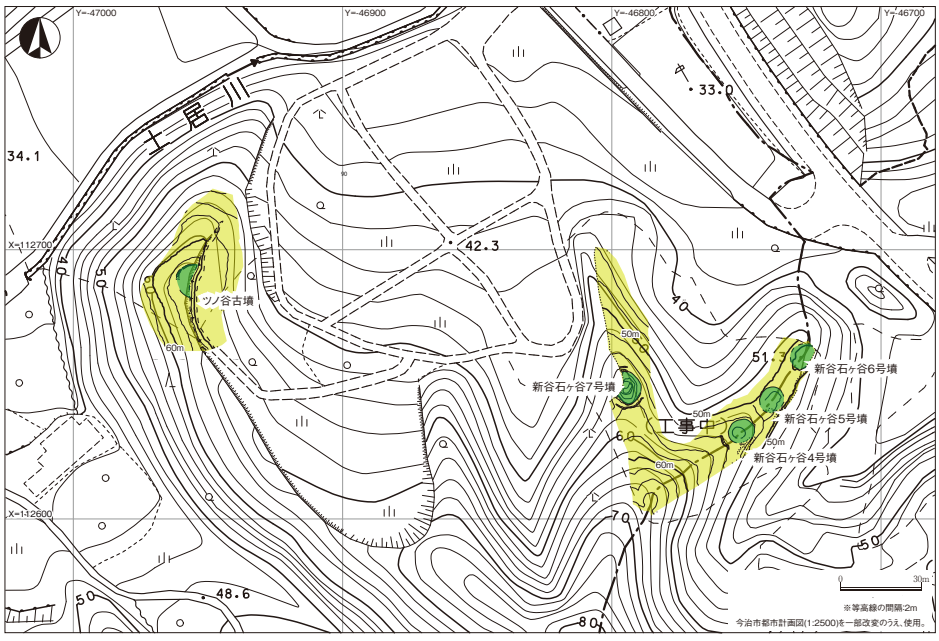
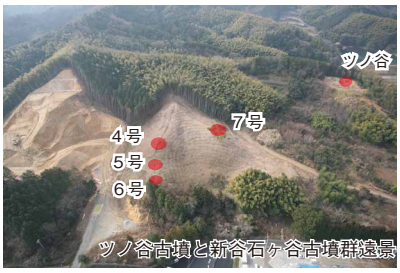


図２　ツノ谷古墳と新谷石ヶ谷古墳群の位置関係

ツノ谷古墳・新谷石ヶ谷古墳群の概要

1　ツノ谷古墳

ツノ谷古墳は 6 世紀中葉にかけて築造された古墳です。墳丘は直径 12m の円墳で、丘陵尾根上に立地します。埋葬施設は横穴式石室です。初葬は 6 世紀中葉で 7 世紀中葉ごろまで追葬がおこなわれました。主な出土遺物は須恵器、土師器、装身具、鉄製農工具、鉄製武器、馬具などです。



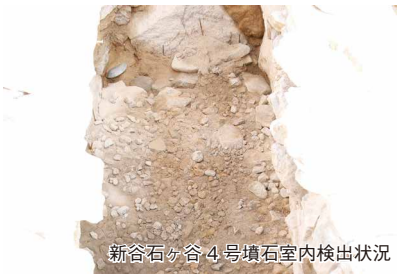
ツノ谷古墳と新谷石ヶ谷古墳群遠景

ツノ谷古墳石室内遺物出土状況

2　新谷石ヶ谷古墳群

(1)　新谷石ヶ谷４号墳

４号墳は直径 9.9mの円墳で、丘陵尾根上に立地します。埋葬施設は横穴式石室です。初葬は 6 世紀中葉で、6 世紀後葉に追葬がおこなわれていました。周溝はもちません。主な遺物は須恵器、土師器、装身具、鉄製農工具、鉄製武器などです。


新谷石ヶ谷４号墳石室内検出状況

(2)　新谷石ヶ谷５号墳

５号墳は直径 9.85mの円墳で、丘陵尾根上に立地します。埋葬施設は横穴式石室です。初葬と追葬は 6 世紀後葉です。周溝はもちません。主な遺物は須恵器、装身具、鉄製農工具、鉄製武器です。

新谷石ヶ谷５号墳石室内検出状況

(3)　新谷石ヶ谷６号墳

6 号墳は約 12m×9.5mの楕円墳で、丘陵尾根上に立地します。埋葬施設は横穴式石室です。初葬は6世紀中葉で、7 世紀中葉にかけて追葬がおこなわれました。周溝はもちません。主な遺物は須恵器、土師器、装身具、鉄製工具、鉄製武器、馬具です。

新谷石ヶ谷６号墳
石室内検出状況

(4)　新谷石ヶ谷７号墳

7 号墳は 13.5m×10m の楕円墳で、丘陵尾根上に立地します。埋葬施設は横穴式石室です。古墳群内で唯一、円筒埴輪が出土しました。初葬は 6 世紀中葉で、7 世紀中葉にかけて追葬がおこなわれたようです。主な出土遺物は須恵器、埴輪、装身具、鉄製農工具、鉄製武器です。

新谷石ヶ谷７号墳石室内遺物出土状況

鉄製農工具多量副葬の背景

1　古墳時代前・中期と後期の鉄製農工具出土点数比較

愛媛県内の前期古墳から出土した鉄製農工具は約 60 点です。前期古墳では、地域を代表する古墳から多くの鉄製農工具が出土している傾向がうかがえます。つづいて、中期古墳からは約 70 点の鉄製農工具が出土しています。中期になると、全長 20m 以下の古墳からも多種類の鉄製農工具が出土するようになりますが、古墳時代中期の鉄製農工具の出土点数は古墳時代前期とほぼ変わりません。

いっぽう、後期古墳出土の鉄製農工具の出土点数は約 800 点に増加します。墳丘の規模は全長 30mの前方後円墳、径 20m から径 10m 前後の円墳まで様々ですが、径 20m 以下の円墳に副葬される事例が多いようです。古墳時代後期は、小地域の非首長層の古墳に鉄製農工具が副葬される点が最大の特徴といえます。

2　鉄製農工具からみたツノ谷古墳と新谷石ヶ谷古墳群

今治平野の鉄製農工具を副葬する後期古墳は、島嶼部、今治平野北部の相の谷地域・近見山地域・日高丘陵地域・玉川地域、今治平野南部の新谷地域・唐子台地域・桜井地域・古谷地域・朝倉南地域の小地域にわけられます。ここでは、今治平野南部の様相についてみていきます。

鉄製農工具の出土点数の多い順に並べると、ツノ谷古墳・新谷石ヶ谷古墳群が所在する新谷地域 (30 点)、桜井地域 (28 点)、唐子台地域 (25 点) の順になり、この三地域は、今治平野南部の中で安定して鉄製農工具を入手している地域といえます。そのなかで、新谷地域の特徴をあげると、鉄製工具が多く出土している点です。そして、今治平野南部で工具を多品目もっている地域は新谷地域のみです。したがって、工具の入手に限れば、ツノ谷古墳と新谷石ヶ谷古墳群の所在する新谷地域は今治平野南部の他の小地域よりも優位であったともいえます。

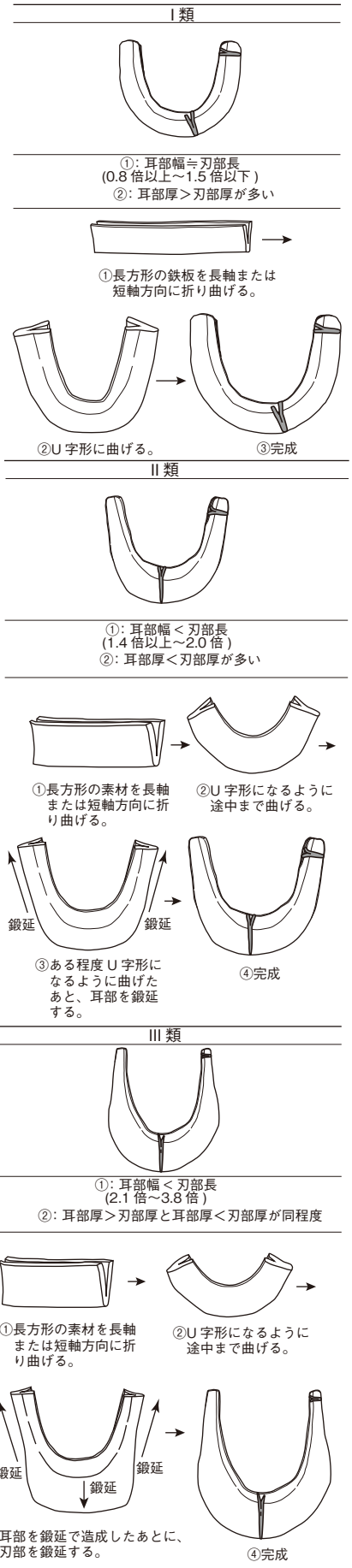
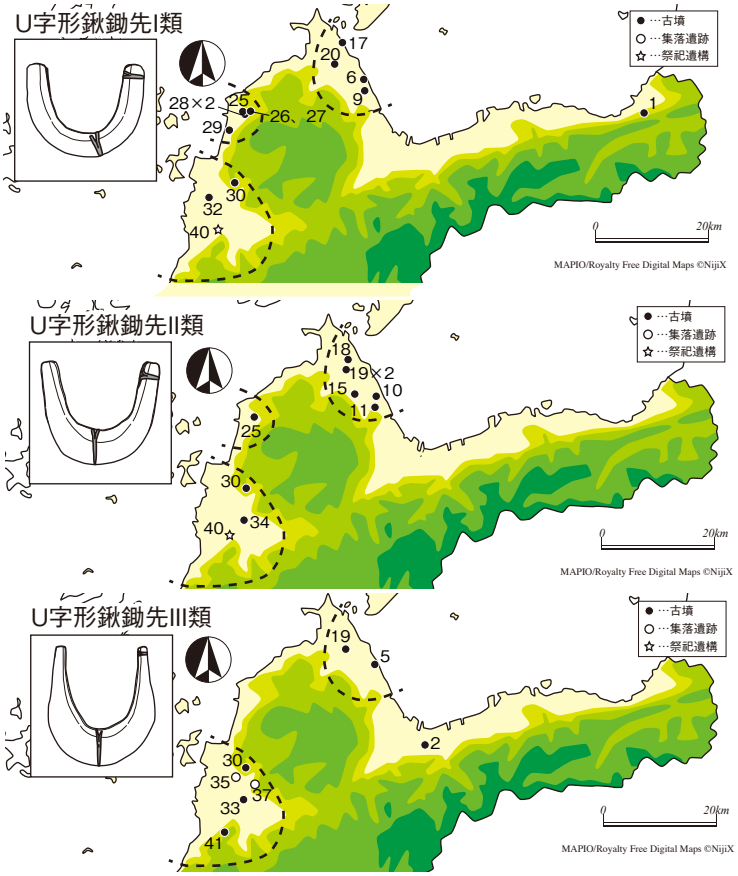


図３　U 字形鍬鋤先の製作方法

3　愛媛県内で古墳時代後期に鉄製農工具が数多く出土する理由

古墳時代後期に愛媛県内で鉄製農工具が多く出土する理由について愛媛県内で出土するU字形鍬鋤先(59点)の製作方法から考えてみます。

愛媛県内のU字形鍬鋤先は製作方法の違いから三種類(I・II・III類)に分類できます。古墳時代中期(9点)では三種類の分布域に傾向はみられませんが、後期(50点)になると分布域に傾向がみられるようになります。このU字形鍬鋤先三種の分布域の中心をそれぞれの製作地ととらえると、古墳時代後期には少なくとも愛媛県内の三地域(松山平野・北条平野・今治平野)でU字形鍬鋤先が造られていたといえます。



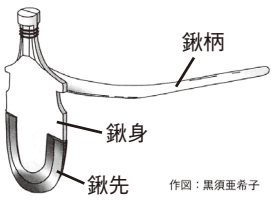
1. 端華の森1号墳、2. 祭ヶ岡古墳、5. 治平谷1号墳、6. 治平谷2号墳、9. 旦13号墳、10. 法華寺裏山古墳、11. 鳥越1号墳、15. ツノ谷古墳、17. 相の谷8号墳、18. 高地栗谷1号墳、19. 片山4号墳、20. 片山7号墳、25. 上難波南0号墳、26. 小田山4号墳、27. 小田山7号墳、28. 庄の谷古墳、29. 片山1号墳、30. 瀬戸風峠1号墳、32. 大池東3号墳、33. 東山18号墳、34. 東山鳶が森3号墳、35. 松山大学構内遺跡、40. 出作遺跡、41. 上三谷原古墳

図4　愛媛県内のU字形鍬鋤先の分布

古墳時代後期の農工具生産は地域に根ざした生産だといわれており、U字形鍬鋤先の生産からみても、そのことが確認できました。くわえて、後期になると中期の5倍に出土点数が増加していることから、古墳時代後期の愛媛県内でU字形鍬鋤先が盛んに生産されていたと考えられます。

鉄製農工具と木製品

最後に鍬や鋤といった完成された製品について考えてみます。U字形鍬鋤先は木製の鍬柄や鍬身に装着されて初めて実用品として機能します。ツノ谷古墳と新谷石ヶ谷古墳群に隣接する新谷森ノ前遺跡や少し離れた新谷古新谷遺跡では、鉄製鍬先を装着する鍬身の部分がみつかっています。鉄製鍬先を日常的に使用するためには、木製柄・鍬身に装着しないといけませんし、木製鍬身は鉄製鍬先にフィットするように製作しなければなりません。したがって、鍬先を造る鍛冶工房と木製柄・鍬身の製作工房は密接な関係が想定できます。お互いに連絡しながら製品としての鍬を製作していたと考えられます。



平鍬(曲柄鍬身)

図5　鍬の復元図(※)

※伊藤隆夫・山田昌久 編 2012『木の考古学 ―出土木製品用材データベース―』海青社より一部改変して使用。